

2022年6月28日

ミス・パリ・ビューティ専門学校 学校関係者評価報告書

ミス・パリ・ビューティ専門学校
校長 本鍋田 あゆみ

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ・ビューティ専門学校 学校関係者評価委員会は2021年度（令和3年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2022年6月28日 13：00～15：30
2. 場 所：ミス・パリ・ビューティ専門学校
3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大 (株式会社sline (美容室サンベイス) 代表取締役)
(日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長)

宮腰 大司 (有限会社ヘアーゲスト 代表取締役)

平山 浩篤 (株式会社シェイプアップハウス 取締役)
(学校法人ミスパリ学園評議員)

杉原 昭二 (学校法人ミスパリ学園理事)

須賀谷 映子 (NPO法人日本スパ・ウェルネス協会 教育委員長)

越川 治枝 (株式会社シェイプアップハウス 教育部 部長)

事務局 本鍋田 あゆみ (ミス・パリ・ビューティ専門学校 校長)
廣石 裕 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 課長)
宇賀神 亜季 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 主任)

陪 席 東 千晶 (株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長)

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

①学生アンケートにおける改善点

【現状】

本校では、教職員の質向上と学生満足度向上を目的とした4種のアンケートを実施し、そのデータから割り出される課題を抽出した。

- 入学アンケート …… ・対象：新入生保護者 ・入学決定における期待
- 授業アンケート（前期・後期） …… ・対象：在校生 ・授業内容、進度、教員指導
- 卒業アンケート …… ・対象：卒業生 ・2年間の学校生活について
- 卒業生評価 …… ・対象：就職先企業 ・就職先での卒業生の様子

入学アンケートの実施に関して、入学式に参加された保護者様を対象としていたが、入学者数に対する参加率が高くなく、全体を把握することが出来なかったため、次回からは案内状を送る際に、アンケートのQRコードを掲載する等工夫をして多くの新入生保護者様にご意見をいただけるように改善をしていく。また、授業アンケートの中で理論や実技科目に対しての進度、難易度、授業量などの適正を問う項目において、評価の低い学生に対しては別途詳細をヒアリングし、不明確な部分をフォローすることにより、理解を深められるようにしていく。

委員より

カリキュラムに対しての学生満足度が高く、厳しい教育の中でも学生一人一人が自身の成長を感じていることがアンケート結果からも推察できる。

また、学生支援の一つとして「マイノート」という取り組みにより、コミュニケーションが不得手な学生は、「ヘルプ」の一言で、それを目にした教員と改善策について、迅速に相談する時間を設けることができ、問題が大きくなる前に解決できるというメリットがあることから、姉妹校への展開もお願いしたい。

.....

②自己評価点の理由

【現状】

全体的に2021年度の自己評価点は前回と比べ向上したと考えている。理由として前年度の改善点として挙がっていた教職員間において、自己評価アンケートの内容についての理解度の差に関しては、職員研修会などを活用し学校の取り組みへの理解を深めたことにより、意識統一が図れたことが要因になったと考えている。また、自己評価アンケートを記名式にしたことで、理解の浅い教職員に対し、個別に学校の取り組みを正しく伝えられたことも、評価向上に繋がったものと考えられる。

委員より

「学校運営などに学生の意見が反映されているか」と、「教育目標達成に必要な施設及び新しい教材が整っており、活用されているか」の項目に対する評価が、昨年度と同じで変化をしていなかった。コロナ禍の状況を見て、今後は学生を主体とした行事の開催を実現し、施設、設備の拡充を適宜進めて頂きたい。また、トータルビューティ学科と美容学科の学修成果を向上させるために、強い目標意

識の構築やメンタル面を強化する施策を考えているとのことであり、是非とも実行していただきたい。

.....

③重点的に取り組む施策

【現状】

2021年度は進級率の向上や学生募集の定員達成が目標となっていたが、学生募集の結果として、トータルビューティ学科以外の定員は未達であった。上級エステティック学科については、最少開講人数が確保できなかった。進級率については全体として昨年対比が微増ではあったが、学生の遅刻や欠席に対してすぐに反応し、保護者様と連携をまめにとっていたことが要因と考えている。トータルビューティ学科は更に学生指導の強化施策として、保護者様との三者・四者面談の実施基準の明確化を行った。また、補講の実施方法や手続き方法についても、補講対象者を増加させない抑止力を目的として厳格化を図っている。

委員より

社会人を対象とした、上級エステティック学科の需要はあるとのことだが、毎年度開講できるような施策を検討・実施していただきたい。オープンキャンパス等で対応レベルを向上させるシスター制度はとても良い施策なので是非、継続をして指導を頂きたい。また、学生の補習に関するルールを厳格化して対応をするとのことだが、要は学生に責任感を持たせて、自らしっかりした行動が取れるようにすることだと考えているので、引き続き指導をお願いしたい。

.....

5. 全体総括

今回の学校関係者評価委員会も要点を押さえた議論を行うことができた。自己評価アンケートでは全体的に高い評価ではあったが、今回は評価が横這いの項目を1つでも多く改善できるように取り組んでいく。特に学生募集の定員達成を最重要課題として、取り組んでいくこととする。また、学生の進級率と卒業率、就職率にも拘って、今後も全職員で学生指導強化を行っていくこととする。

以上